

「彦根に井伊家の歴史とひこにゃんを訪ねる旅」報告書

樽前会 西日本支部 南部 満

今年の支部のハイキングは、大河ドラマで何かと話題の多い「彦根」としました。最近のTVでも「鶴瓶の家族に乾杯」や「ブラタモリ」などでも紹介されています。

滋賀県は京都の東側に隣接し、中山道や北陸へ向かう街道もあり、戦国時代には多くの戦が交され、古戦場もたくさんあります。特に彦根は両街道の交差点であり交通の要衝で、琵琶湖の水利権を掌握できる地域です。地図を眺めてみると、彦根の西側の安土も含めて戦略上重要な地域であることが良く判ります。

大河ドラマ（残念ながら先週末で終了しました）の主人公の井伊直虎の養子であった井伊直政（幼名：虎松）の銅像が JR 彦根駅前のロータリーに設置されています。



まずは彦根名物「ひこね丼」で腹ごしらえです。ひこね丼はご飯の上に牛のスジ肉と赤こんにゃく（井伊家の赤備*1をイメージしたもの）を煮込んだ具が乗ったB級グルメです。

店はひこね丼を求める旅人で結構込み合っていました。



昼食後駅から 30 分ほどの龍潭寺に詣でてきました。

龍潭寺は「石田三成」が居城としていた「佐和山城」の麓に位置しています。井伊直政は関ヶ原の戦いの功績を讃えられ徳川家康から石田三成の居城「佐和山城」と領地を与えられました。

井伊直政は「徳川四天王」の一人に任じられ、以降井伊家は井伊直弼まで 13 代続き、その間徳川幕府の大老を務めるなど幕政の中心を果たしています。

龍潭寺は遠州井伊谷で代々井伊家の菩提寺でしたが、直政の佐和山への移動に伴い本山の末寺として昊天（大河ドラマにも出ていました）により移建開山されました。

歴史を感じる仏像やだるまも見ごたえがありますが、特に庭園が素敵です。



龍潭寺を後に、30 分位歩いて、国宝彦根城へ。メインイベントです。

彦根城は国内に 5 件しかない国宝天守のうちの一つで、姫路城に続いて 2 番目に城郭建造物として国宝に指定されました。彦根城は直政の死後井伊家の家臣が「彦根山」への移築を願い出て家康により認められました。移築の目的は、戦国時代が終わって、家臣の住宅や商業を振興し賑わいのある城下町を創るためだったと思われます。以降明治維新まで彦根

は城下町として栄えました。

彦根山は標高 136m で、頂上に 3 層 3 階の天守が聳え、国宝に相応しい美しい城です。天守閣までの道のりは傾斜もあり、結構歩きごたえがあります。大河ドラマの影響か観光客も多く（外国人も結構多かったです）天守閣には 30 分待ちでした。残念ながら「ひこにゃんに」には会えずじまいでした。



彦根城見学のあとは江戸時代のイメージが残るキャッスルロードを散策。駅に戻って恒例の「反省会」です。反省の弁はありませんでしたが、彦根の夜は楽しい雰囲気の中更けていきました。

最後に

ここ 3 年間京滋方面で主に「歴史」をターゲットにしたハイキングが続きました。来年は近場を選んで企画したいと思います。素敵な提案をお待ちしています。

*1: 赤備（あかぞなえ）井伊家の戦いでのでいたち。甲冑・武具や旗を赤で統一して戦意を高揚させた。

赤は戦場で目立ち、精鋭部隊として活躍が語り継がれた。顔料には朱（水銀）が使われていたとの事。